



口腔ケアから全身の健康管理へ 禅の教えと徹底した臨床実習で 患者に寄り添う歯科医師を育成



かつむらせに
勝村聖子入試センター所長
2000年、鶴見大学歯学部卒業。2004年、東京医科歯科大学大学院修了。博士(医学)。専門は歯科法医学。2026年、鶴見大学歯学部教授、現在に至る。

SUMMARY

曹洞宗大本山總持寺を母体とする学校法人總持学園により1953年に開設された鶴見大学。1970年に設置された歯学部は、建学の精神「大覚円成報恩行持」のもと「良き臨床医の育成」を理念に掲げ、6,000人を超える卒業生を輩出。その実践的な教育は「臨床の鶴見」と高く評価されています。

近年、口腔の健康は全身の健康や健康寿命を支える重要な要素として注目され、歯科医師には高度な医療技術に加え、全身を視野に入れた幅広い知識と、患者一人ひとりに寄り添う豊かな人間性が求められています。こうした時代の要請に応え、「口腔医療の専門家」の養成に取り組む鶴見大学歯学部の魅力について、入試センター所長の勝村聖子歯学部教授に伺いました。

01 歯科医師に必要な心を育む 曹洞宗・望山禪師の教え

「き臨床医の育成」を掲げ、1970年の開設以来、約6000人の歯科医師を輩出してきた鶴見大学歯学部。その母体である總持学園の源流は、曹洞宗大本山總持寺の開祖・望山紹瑾禪師の600回大遠忌を記念して1924年に設立された光華女学校にあります。

鎌倉時代に曹洞宗の教えを広めた望山禪師は、女性の救済にも力を注いだことでも知られます。より多くの人々を救いたいという願いは、「大覚円成 報恩行持」（感謝を忘れず、真人（ひと）となる）という建学の精神として受け継がれてきました。

曹洞宗は「修行は日常生活そのもの」であると捉え、口腔を清潔に保つことを「心を整える行為」の一つとして重視しています。「望山禪師の教えには、歯を大切にすること（ことが繰り返され）が繰り返されています。その思想が、本学の歯学部開設の礎になったと言われています」と、勝村聖子歯学部教授はその歴史を語ります。

02 1年次から人間性を育む 禅の教えで学ぶ感謝と報恩

宗系ならではの行事も大きな魅力です。曹洞宗の大本山・總持寺の境内にキャンパスがあるため、1年次には「宗教学」の授業で世界の多様な宗教について学ぶとともに、5月には總持寺で座禅や食事を通して禅寺での生活に触れる「本山参禅会」があります。これは感謝の心や他者を敬う姿勢を学び、自分自身と向き合う時間を持つことで、建学の精神を体得することを目的としています。「参禅会では、自分たちと同年代の修行僧が

域と密着した本学の附属病院だからこそ、患者さんにも教育へのご理解をいただき実践的な経験を積ませていただいていますし、「地域の皆さんや患者さんに勉強させていただいている」という自覚と感謝が学生に育まれ、歯科医師としての恩に報いる姿勢につながっているのです」と勝村教授は語ります。「臨床実習が充実しているので、鶴見大学を志望した」という受験生は少なくないといいます。

04 「形態の回復」から「機能の回復」へ 歯科医療の可能性は大きく広がる

科医の在り方は近年大きく変化しています。従来の虫歯を削って詰め物をするなど「形態の回復」に加えて、噛む、飲み込む、話すなど口腔全体の機能を取り戻す「機能の回復」が重要になっています。厚生労働省の調査によると、小児のむし歯は減少する一方、歯周病の有病率は改善しておらず、生涯にわたる歯科検診の重要性が指摘されています。また、口腔の健康は生活の質（QOL）だけでなく、全身の健康とも深く関わっていることが明らかになっています。

こうした中、注目されるのが「周術期口腔管理」です。手術やがん治療などを受ける患者に対し、治療の前後に専門的な口腔ケアを行う取り組みで、全国の医療機関に広がっています。

「現代の歯科医師は、口の中だけを診る単なる「歯医者さん」ではありません。例えば、まだ歯の生えていない赤ちゃんでも、今後の骨の成長に伴って歯並びがどう変化していくのかまで診ていく必要がありますし、患者さんの全身疾患をコントロールするという役割も担っています」（勝村教授）

境内を案内してくれます。私も本学の卒業生なので経験がありますが、彼らが携帯電話も持たず修行に励む真剣な姿に触れることで、「自分も頑張らなければ」という気持ちになり、学生たちは「とても貴重な経験だった」と満足して帰ってきます」と勝村教授は話します。

2年次には人体解剖学実習が始まりますが、鶴見大学では毎年「解剖献体精霊供養法会」を總持寺で執り行い、学生全員が参列します。紫雲臺眼下を導師を迎え、「献体への感謝」と遺族への敬意をあらためて胸に刻むことで、生命を尊び、高い倫理観を持って実習に臨む姿勢を育んでいます。

世界中から参拝者や観光客が訪れる總持寺は、国際的な禅の根本道場でもあります。「参道では修行僧が托鉢を行う一方、附属二松幼稚園の園児が銀杏拾いをして遊び、夏のみ霊祭には境内に屋台が並んで多くの人でにぎわいます。こうした環境の中で、曹洞宗の文化や精神に触れながら6年間を過ごせることは、本学ならではの魅力でしょう」と勝村教授は語ります。

03 地域に信頼される「臨床の鶴見」 時代に即応した教育を展開

代の高度化した歯科医療に対応するには、最新の知見に基づく歯学の知識はもちろん、患者との対話を通じて、隠れた疾患を含む全身状態を把握するコミュニケーションも求められます。その力を実践的に養うのが、5年次から附属病院で行われる「診療参加型臨床実習」です。

「臨床実習では学生が補助的な役割を担う大学も多い中、本学では学生自身が患者さんを担当し、診療内容を説明した上で治療を進めます。もちろん、指導教員が常に監督して安全を確保しますが、診療の主体はあくまで学生です。地

05 一人ひとりに寄り添う学修支援で 時代のニーズに応える歯科医師を育成

見大学での6年間を通したこれらの経験は、歯科医師に必要な人間力を養う貴重な機会となっています。

学生一人ひとりをきめ細かく支えるサポート体制も大きな特徴です。全学年を通じて、教員一人が数名の学生を担当するチューター制度を導入し、学修方法から学生生活まで幅広くサポート。さらに、一人ひとりの課題に応じて学びを支える「弱点克服型教育」にも力を入れています。チューター制度を基盤に発展した、学生同士の学修グループも鶴見大学ならではの取り組みです。学生同士だからこそ伝わる言葉で学びを支え合う環境が、確かな学力の向上につながっています。

「結婚や出産といったライフステージに応じて自分に合った働き方を選ぶという点でも、特に女性にとって歯科医師は魅力的な職業だと言えます。AIやロボットが進化しても、超高齢社会を迎える中、人間性や精神力を備えた歯科医師が求められる場面は決してなくなりません。仏教の教えに基づく唯一無二の教育理念を持つ本学で、「時代のニーズに応える歯科医師」を目指してください」と勝村教授はエールを送っています。

(1) 総持学園
関東大震災翌年の1924（大正13）年、曹洞宗大本山總持寺を開いた望山禪師の600回大遠忌を記念し、光華女学校として発足。2024年に創立100周年を迎えた。鶴見大学は1953年、鶴見女子短期大学としてスタート。63年に鶴見女子大学となり、70年に歯学部を設置。73年、歯学部の男女共学化を受けて鶴見大学に名称を変更。

(2) 歯学部臨床実習
歯学部臨床実習は、多くの大学で5年次で行われる実際の医療現場で知識と技術を修得するための重要な教育課程。2024年度からは歯科医師法改正に基づき、CBT（Computer Based Testing）と OSCE（objective structured clinical examination）が公的試験となった（知識・技能・態度・コミュニケーション能力・態度を評価）。この2つの試験に合格した者だけが5年次に進級し、臨床実習に参加できる制度となっている。



PICK UP 鶴見大学歯学部は学ぶ意欲の高い受験生を応援します

新入生特待奨学生制度

【一般選抜（個別選抜型）1期】

○奨学制度内容

初年度学納金350万円免除 成績上位者1位～3位
(2科目合計200点満点中160点以上)
初年度学納金200万円免除 成績上位者4位～10位
(2科目合計200点満点中150点以上)

○新入生特待奨学生チャレンジ制度

12月までに実施される入試（指定校・総合型など）に合格して入学手続きを完了し、特待生選抜試験＜一般選抜（個別選抜型）1期＞に申請することでチャレンジできます

【共通テスト利用型】

初年度学納金200万円免除 成績上位者1位～5位
(3科目合計300点満点中200点以上)

【2年次編入学特待生選抜試験】

編入学試験1期・2期で合格して入学手続きを完了し、編入学特待奨学生選抜試験に申請するとチャレンジできます

初年度学納金100万円免除 成績上位者1位～3位
(2科目合計200点満点中160点以上)

在学生の奨学金制度も充実

2年次～6年次を対象に、前年度の成績により学納金一部免除

